

卒業論文

大澤ナショナリズム論の解説と応用

-韓流ブームへの適用と解明-

平成 18 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専攻

平成 22 年 1 月提出

要約

本論文は、大澤真幸『ナショナリズムの由来』についての解説を試み、大澤ナショナリズム論と既存の社会的に定義されたナショナリズム論を使って、昨今の韓流ブームにおいて見られた具体的事象に応用し、分析を行うものである。

第1章では、『新社会学事典』（森岡ほか 1993）をもとに、今日においてナショナリズムの定義がどのようになされているか再確認するとともに、その形成過程、及び形成に必要な要因について確認していく。社会的に定義されたナショナリズムは「あるネーションの統一、独立、発展をめざす成員の意識と運動」とされており、そのために必要なネーションの形成には、(1)同一言語の共有 (2)歴史の共有 (3)多民族からの圧迫 (4)国民教育が必要とされている。

第2章では、本論の軸ともいえる『ナショナリズムの由来』の中から論点を絞って取り上げ、その内容を整理し、またその解説を試みる。その論点とは①ナショナリズムには、特殊主義と普遍主義の両義性が存在する。②普遍主義を維持するためには、＜外部＞の存在が不可欠である。の2つである。

第3章では、第1章で取り上げた社会的に定義されたナショナリズムを「ナショナリズムS」、第2章で取り上げた大澤のナショナリズムを「ナショナリズムO」とラベリングをし、第4章の分析における具体的方法について説明する。また分析に入る前に第1章と第2章の論点のまとめを行う。

第4章では、私達の周りで実際に起こる現象の中に、ナショナリズムSとナショナリズムOがどのように存在しているのかについて考えていく。

本論では、「私達の周りで実際に起こる現象」の一例として“韓流ブーム”を取り上げる。実際の新聞記事をもとに、韓流ブームが起きた要因の代表格として知られる『冬のソナタ』を中心に、そこから派生した具体的事例について焦点を当てて、ナショナリズムの存在を探る。

第5章では、第1章～第4章までの文献調査や分析をもとに、発見や考察などを述べていく。主に発見したことは2つあり、1つはそれぞれのナショナリズム論がある1つの事象について重層的に説明ができるのだということ、そしてもう1つはナショナリズムが有する帰属意識こそ、私達の生活にも根ざした身近なエッセンスだということである。

目次

■はじめに	1
第1章 現段階におけるナショナリズムの社会学的定義	2
第1節 ナショナリズムとは	2
第2節 ナショナリズムとネーション	3
第2章 大澤真幸『ナショナリズムの由来』の解説	5
第1節 本の概要	5
2.1.1 構成	5
2.1.2 著者	5
第2節 論点整理と解説	7
2.2.1 とりあげる論点	7
2.2.2 論点① ナショナリズムの両義性	7
2.2.3 論点② 普遍性を維持するための〈外部〉の存在の不可欠性	10
第3章 分析方法	12
第1節 分析方法と分析対象	12
3.1.1 分析方法	12
3.1.2 分析対象	12
第2節 2つのナショナリズム論の論点確認	14
3.2.1 ナショナリズムS	14
3.2.2 ナショナリズム0	15

第4章 韓流ブームに見られるナショナリズム	16
第1節 語句の定義	16
4.1.1 韓流ブーム	16
4.1.2 「冬のソナタ」	17
第2節 韓流ブームの具体的事例への応用	18
4.2.1 『冬のソナタ』のストーリーについて	18
4.2.1.1 ナショナリズムSの場合	18
4.2.1.2 ナショナリズム0の場合	21
4.2.2 『冬のソナタ』から派生した韓流ショップについて	22
4.2.2.1 ナショナリズムSの場合	24
4.2.2.2 ナショナリズム0の場合	26
第5章 考察——ナショナリズムの重層性と帰属意識——	27
■おわりに	29
参考文献	30